



概要・特長

平成16年度制定『車両用防護柵標準仕様・同解説』『防護柵の設置基準・同解説』に準拠

「Gベース」は、車両の衝突荷重を考慮し、金沢大学の指導の下、安定・構造試験を行い、その安全性が確認され、たわみ性防護柵C種～SC種に対応しています。また、歩道用(P種)対応規格もご用意させていただいております。(NETIS HR-050011-VE)

1 下部構造物の直上に設置可能

下部構造物とGベースの前面ラインをそろえる計画が可能。

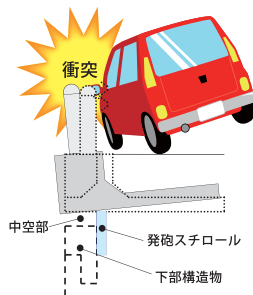
- ①必要用地幅が小さくなり、用地取得費用が削減。
 - ②下部構造物の断面も小さくなり、盛土の費用も削減。
- なお、衝突事故が発生した場合も中空部を設けて設置されたGベースは、下部構造物に衝突荷重を与えません。
『実験報告』をご参照ください。

2 豊富なバリエーション

- ①背面に側溝を設置する計画が可能。
 - ②総高500～800までの規格を保有。
 - ③遮音壁、標識など特殊部の対応が可能。
- 『道路付帯構造物設置例』をご参照ください。

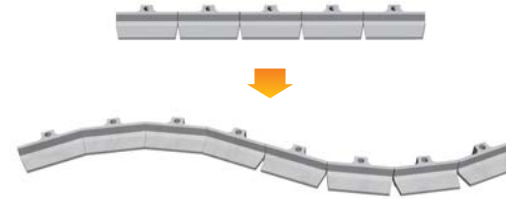
	必要寸法※	Gベース 標準製品			
		H400	H500	H600	H700
自由勾配側溝 (300×300)	背面高495mm以上	-	-	○	○
道路用側溝 (300A)	背面高515mm以上	-	○	○	○
現場打防護柵基礎	総高800mm	-	-	-	○

※必要寸法は、各側溝の最低規格の総高に高さ調整のコンクリート、モルタル、砕石等を考慮した値。



3 ドライ施工で工期短縮

- ①背面のコンクリート打設が不要。
- ②ボルト連結で容易に施工。
- ③標準製品での曲線施工対応が可能。(R15mまで対応可能です)



●直線部連結仕様 間隔保持材

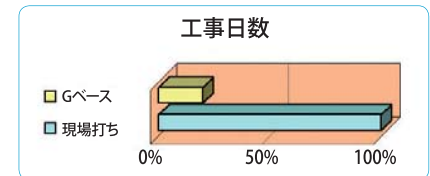


※曲線部は専用プレートにて連結します。

4 維持管理も容易

万が一の事故による損傷時も早期復旧が可能。

◎復旧に要する工期は20%



事故対応事例

事故後の防護柵及びGベースの取り替え事例。
わずか2日で復旧が完了しました。

参考文献『道路土工-擁壁工指針』平成24年7月 (P.213) より

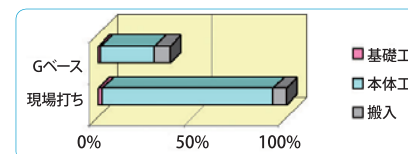
付属施設の基礎は擁壁と分離し、その影響が擁壁本体に及ばないように計画するのが望ましい。用地条件や周辺環境条件等の理由から、付属施設を擁壁に直接取り付ける場合には、付属施設が擁壁に及ぼす影響を十分考慮して必要な措置を講じるものとする。

Gベースは、下部構造に影響を及ぼさない設計をしています。

5 環境貢献

CO₂排出量の低減による環境貢献

◎CO₂排出量は現場打ち工法の40%



10m当たりの排出量の差を金額換算すると…約6,100円/10m相当。

6 幅広い柔軟な対応

- ◎ガードレールをはじめ、ガードパイプ、ガードケーブルにも対応が可能です。
- ◎曲線施工R15m対応以外の屈曲部なども、斜切製品にて対応が可能です。
- ◎縦断勾配に合わせた設置が可能で、縦断勾配B、C種15%、SC種12%まで対応可能です。
- ◎防護柵始末端の緑部対応 (L=1.5m) も可能です。
- ◎Gベースは、その他様々なニーズにお応えできる製品です。

最寄りのGネット工業会社にお問い合わせください。



道路付帯構造物設置例(照明・標識・防風柵)